

評価の目安

単元	教材名	評価規準		A 評価の目安例	B 評価の具体例 ※記述＝ノート・ワークシート等を含む	C 評価への支援例
1	「古文の世界へ」 「いろは歌」 「児のそら寝」 (宇治拾遺物語)	知識・技能	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや古典特有の表現などについて理解している。(言語文化ウ) 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(言語文化エ)	歴史的仮名遣いの用法についての確に理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて考え、言葉の変化について理解を深めている。	歴史的仮名遣いの用法について理解し、古典の言葉と現代の言葉とのつながりを考えている。(記述の確認)	「古文を読むために①」を参考に、「いろは歌」「児のそら寝」をゆっくりと繰り返し音読させ、気づいたことをあげさせる。
		思考・判断・表現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。(読むことイ)	「児」が「無期ののち」に「えい」と返事をした理由を的確に捉え、自分なりの見解をまとめ、内容を適切に解釈している。	「児」が「無期ののち」に「えい」と返事をした理由を捉え、自分なりの見解をまとめている。(記述の分析)	「定めておどろかさむずらむ」「ただ一度にいらへむも。待ちけるかともぞ思ふ」の部分に着目させ、傍訳や脚注を参考にして考えさせる。
		主体的に学習に取り組む態度	進んで古典の世界に親しむために、文語のきまりや古典特有の表現について理解し、文字や言葉の変化について理解を深めるとともに、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みをしようとしている。	歴史的仮名遣いの用法や注意点を的確に理解し、説話の登場人物の言動やその理由について、自分なりの見方や感じ方を進んでまとめ、考えを深めている。	歴史的仮名遣いの用法や注意点を理解し、説話の登場人物の言動について、自分なりの見方や感じ方をまとめている。(記述の点検)	ゆっくり音読することに取り組みせるとともに、歴史的仮名遣いの用法を整理させる。また、内容把握に必要な古今意義語等の存在に、興味を持たせられるよう、学習中の気付きについて発言を促す。
1	「漢文の世界へ」 「漢文の格言」 「故事二編」 借虎威／蛇足」	知識・技能	古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。(言語文化ウ) 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(言語文化エ)	訓読のきまり、漢文の基本構造についての確に理解するとともに、多くの「故事」が、故事成語として現代の日本語に根付いていることを理解し、進んでこれを活用しようとしている。	訓読のきまり、漢文の基本構造について理解するとともに、多くの「故事」が、故事成語として現代の日本語に根付いていることを理解している。(行動の観察)	文の区切りごとにゆっくり音読することからはじめ、徐々にテンポアップし、全体を繋げて音読していくことによって漢文のリズムを体感させる。故事成語の意味は、辞典等で調べさせ、簡単な形で報告させる。
		思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。(読むことア)	内容や構成、展開などについての確に捉え、自分の考えをまとめている。	内容や構成、展開などについての確に捉えている。(記述の分析)	指示語「之」に着目させ、それぞれが何を指しているのかを箇条書きで書かせる。
		主体的に学習に取り組む態度	古典の世界に親しむために、訓読のきまりや古典特有の表現について理解し、進んで文字や言葉の変化について理解を深めるとともに、内容や構成、展開などについて叙述を基に、粘り強く的確に捉えようとしている。	訓読のきまり、漢文の基本構造について進んで理解しようとし、故事成語が現代の生活に浸透している文化的背景についての的確な理解を深め、自らの学習を調整している。	訓読のきまり、漢文の基本構造について理解し、故事成語が現代の生活に浸透している文化的背景についての理解を深め、自らの学習を調整している。(行動の分析)	辞典を活用させることで、イメージをふくらませることも有効である。
1	「近現代文学の世界へ」 「言文一致のあゆみ」 「ゴール」	知識・技能	時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。(言語文化エ) 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。(言語文化オ)	現代小説ならではの言葉の用いられ方に着目し、それらの表現が小説の内容や印象に深く関わることを的確に理解し、自らの言語表現に活用している。	現代小説ならではの言葉の用いられ方に着目し、それらの表現が小説の内容や印象に深く関わることを理解している。(記述の確認)	「言文一致の歩み」を参考に、「ゴール」の本文をゆっくりと音読させ、用いられている言葉(和語・漢語・外来語などの印象を、箇条書きで列記させる。
		思考・判断・表現	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。(読むことオ)	作品の内容・表現を的確に捉え、自分の見解を適切にまとめ、言語文化について理解を深めている。	作品の内容・表現を捉え、自分なりの見解をまとめている。(記述の分析)	それぞれの登場人物の言葉や行動について箇条書きにして、その特徴を考えさせる。
		主体的に学習に取り組む態度	現代小説ならではの文字や言葉の用法に着目し、作品の内容や解釈を踏まえて、粘り強く自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について進んで理解しようとしている。	現代小説の表現方法に着目し、作品のものの見方・考え方を的確に踏まえて、自分なりの見方や感じ方を深め、適切に文章にまとめようとしている。	現代小説の表現方法に着目し、作品のものの見方・考え方を踏まえて、自分なりの見方や感じ方を文章にまとめようとしている。(行動の分析)	作品の感想を短い言葉でいくつか書かせ、その共通点を考えさせる。